株式会社 地域環境計画

2004
No.22

News Letter

◆写真１　カラフトマス雄◆

サケ・マスにまつわるはなし

◆写真２　ヒグマ爪跡◆

◆写真３　ヒグマ糞◆

道東地方では、晩夏から晩秋にかけて、川が大変な賑わいを見せてくれます。主役は主にサケ、カラフトマスで、大挙して河川に遡上してきます。 体長60cm以上もある魚が、群れで押し寄せてくるわけですから、それはそれは見応え充分です。加えて、負けず劣らず成長したアメマスの姿も混ざって、激しい争いも見られます。

見た目に迫力がある（異様な姿ともとれる）のは、カラフトマスの雄（写真1）。俗に「背っ張り」と呼ばれる盛り上がった背中。個体によっては、直角に近い角度で盛り上がるものがありますが、この盛り上がった背中の中身は主に軟骨なのだそう。真上から見ると、ただの薄っぺらな魚にしか見えませんが。

秋も深まると、俗に「ホッチャレ」と呼ばれる遡上後の死亡個体が河原に転がっている光景が見られるようになります。この頃になると、今度は川の中よりも、川の周りの方が賑やかになってきます。この死体を食べようとする様々なツワモノ達が現れるからです。カモメやカラスのほか、オジロワシなどの大型鳥類が次々に舞い降りて、むさぼり食っていきます。しかし、羅臼町などではそれでも食いきれる量ではないらしく、目玉だけをくり貫かれ、身はそのままで転がっている贅沢な食い方をされた死体を何度も目にしました。

そんなサケ・マスの多い川の近くにある、森でよく目にするのがこんなモノ（写真2）、林道でよく目にするのがあんなモノ（写真3）です。言わずと知れた王者のしるし。また、川から離れた森の中に、何故か「ホッチャレ」が転がっていたこともあります。誰がこんなところまで持ってきたかという余計なことはあまり考えないようにして、早々に引き上げるのが最善の策といったところでしょうか。この王者こと、ヒグマには毎年遭遇しますが、姿を見せてくれた個体は今のところ、幸いどの個体も道を譲ってくれる謙虚な方々ばかりでした。譲り方は一目散に逃げるものから、いかにも面倒くさそうにシブシブと立ち去るものまで個体によって様々でした。しかし、一度、藪の中から咆哮を受けたことがあり（金縛り的緊張感を味わえます）、調査で山に入る時などは油断なりません。今年、いや、今後とも勝手ながら謙虚な方だけとお会いしたいものです。

（北海道支社自然環境研究室・　宇山浩彦）

目次

エッセイ　サケ・マスにまつわるはなし ―― 1
業務紹介　地域連携―里山林（雑木林）の管理の事例 ―― 2
マンガ　調査員物語 ―― 5
研究紹介　北海道のヤチネズミ類について ―― 6
ある日のフィールドノートから　本来の自然とは ―― 8